

3 食を通じて環境に優しい暮らしを築くために

(1) 県や関係団体等の取組

ア 環境に配慮した食生活等の推進

食生活における環境への負荷を軽減するため、食を通じて環境について考える機会の提供や環境に配慮した行動の普及を図りました。

愛知消費者協会は、「食と環境」をテーマとしたシンポジウムを開催し、会員によるアンケート調査の結果を通して、日々の便利で快適な生活習慣のあり方や食生活と環境との関わりについての意識を高めました。

○まるごと食を心がけていますか。

	20~30	40~50	60	70	計
心がける	4	17	33	24	78
なるべく心がける	52	97	78	71	298
心がけない	44	49	21	15	129
その他	2	0	1	0	3
計	102	163	133	110	508

※まるごと食を心がける方はどんなものをどのように

大根の葉：なめし お浸し 胡麻和え 汁の具
油炒め ふりかけ 漬物

人参の葉：油炒め てんぷら 蒸しパンに入れる
野菜はなるべく皮をむかない

フキの葉：佃煮

キャベツの芯：漬物 スープなど

魚：圧力なべで骨まで食べる

「愛知消費者協会シンポジウム」地域活動発表補足資料 抜粋

県は、名古屋みなと振興財団との共催により「あいちの水産企画展」を名古屋港水族館で開催し、訪れた約 95,000 人の入場者に対して本県の魚介類や漁業、海の環境などについて、広く県民の理解を深めました。

イ 地産地消の推進

身近な農林水産物を積極的に使うことは、遠くから運ばれてくるものに比べて輸送にかかるエネルギーが少なくすむなど環境への負荷の軽減につながることから地産地消を推進しました。

愛知県栄養士会は、愛知県と協働して夏休み期間中に県内 7 地域で「地元の農林水産物を活用した親子料理教室」を開催し、身近な農業や望ましい食生活の話、調理実習を通して地産地消に対する理解や意識を高めることに努めました。



親子料理教室で地元の産物（ブドウ）について説明

愛知県酪農農業協同組合は、青年女性部の活動として6月の第3日曜日の「父の日」にちなんで知事に本県産の牛乳（ちち）を贈り、県内産牛乳・乳製品の消費の拡大をPRしました。

県や中日新聞社等で構成するふるさと農林水産フェア・秋実行委員会は、「ふるさと農林水産フェア・秋」を開催し、74団体188ブースの出展により地産地消や食育の普及を図りました。

ウ 農業等における環境への配慮

農業における化学肥料や化学合成農薬の低減や資源循環の取組を推進しました。

県は、土づくりを行い、化学肥料や化学合成農薬を減らす農業に取り組む生産者を「エコファーマー」として認定し、その活動を応援しています。平成19年の新規認定によりプランに掲げた目標を上回る3,580名が認定を受けており、環境に優しい農業についての取組が広がっています。

また、資源循環型地域づくりを目指して、名古屋市内の小中学校等の学校給食で使われた天ぷら油から精製したバイオディーゼル燃料（BDF）を使ったトラクターの走行させて実用性をPRし、BDFに対する関心を高めました。

（2）県内における取組事例

「愛知を食べる学校給食の日」や1月24日から30日までの全国学校給食週間にあわせて地場産物を学校給食に積極的に使用する取組や給食に地元の米を使った米粉パンを取り入れた取組が行われました。

地域でも、米粉パンの調理実習、落花生のもぎ取り体験、農村女性によるイベントでの産地直売、地元農産物を使った親子料理教室、地産地消ランチを楽しむ食育体験講座や食材を丸ごと使って食べる料理講座など地産地消に対する理解を深める取組が行われました。

また、生協の店舗を活用して、経済産業省の「バイオマス・プラスチックの3Rシステム化可能性調査」が行われ、バイオマス・プラスチックで作られた容器の利用と回収について試験的に取り組まれました。

なお、環境省が平成19年度に創設した「食品リサイクル推進環境大臣賞」において、愛知県経済農業協同組合連合会、ユニー株式会社、ヒラテ産業有限会社による取組が最優秀賞を受賞しました。これは、愛知県経済農業協同組合連合会が調整役となり、この三者を中心にして食品残さから堆肥を製造し、それを活用して生産された野菜を販売するという一連の流れが形成されたことについて、信頼性が高く、安定・継続的な取組であると評価されました。